

※解答はすべて答案用紙に記入すること。

次の文章を読んで、後の問い合わせよ。

『源氏物語』に後れること七、八十年、白河・堀河朝ごろの成立と推定されている『大鏡』は、藤原道長の栄華を中心に、そこに至るまでの摂関政治史の軌跡を描いた歴史物語であるが、とかく『源氏物語』の対極に位置するものとみなされがちなテクストでもある。とはいって、『源氏物語』が「江戸時代までのほとんどすべての作品を規制・呪縛する強力な文学的規範となつた」とまでいわれる中で、独り『大鏡』のみが『源氏物語』との「訣別」を果たし、その影響を免れていたわけではない。そもそも、『大鏡』は歴史物語の唯一の先例として、最も強く、かつ直接的に影響を受けている『栄花物語』にはまったく言及しないなど、一筋縄ではゆかないテクストであり、『大鏡』に『源氏物語』への言及があつ無であることは、かえつてその影響の大きさを暗示しているかのようでもある。『源氏物語』のアンチテーゼであろうとしていたことじたい、『大鏡』が『源氏物語』をむしろ強く意識していたことの証左にほかならないであろう。

さらに、『大鏡』は『源氏物語』に対してアンチテーゼという否定的な立場にのみ終始していたわけではなく、形式・内容の両面にわたつて『源氏物語』に多くを学んでいたものと思しい。たとえば⁽¹⁾『大鏡』の対話様式が『法華經』や空海の『三教指帰』などとともに、光源氏が友人たちと理想の女性について語り合う『源氏物語』「帝木」巻の雨夜の品定めにも倣つていてあるうこと、外戚による天皇の「後見」を重く見る『栄花物語』『大鏡』の摂関政治觀が『源氏物語』のそれを継承したものであることなどがすでに指摘されているが、そればかりではなく、『大鏡』は個々の章段の具体的な構想をめぐつても、『源氏物語』から示唆を得ていたようである。

本稿では、その一例として『大鏡』の三条天皇と『源氏物語』の朱雀帝との関わりに焦点を当て、『大鏡』における『源氏物語』摂取の具体相について考察を試みてゆくことにしたい。

『大鏡』の天皇章段（帝紀）は、大臣章段（列伝）の一割強ほどの分量しかなく、内容も概して簡略であるが、そうした中にあって、道長の甥にあたる三条天皇の章段——「六十七代 三条院」は、異母兄花山天皇のそれとともに比較的長く、逸話も豊富である。もつとも、その逸話の大半は三条の眼病に関するものであり、『大鏡』の三条天皇像が「目を病む帝」というイメージを中心に形成されていることが知られる。その眼病は、次のように語られている。

A院にならせたまひて、御目を御覧ぜざりしこそ、いといみじかりしか。⁽²⁾こと人の見たてまつるには、いさきか変はらせたまふことおはしまさざりければ、そらごとのやうにぞおはしましける。御まなこなども、いと清らかにおはしましける。いかなる折にか、時々は御覧する時もありけり。

完全に失明したのではなく、「時々は御覧する時もあ」つたというが、これは、当時の大納言であった藤原実資の日記『小右記』につぶさに記されている三条天皇の病状とも符

合しており、『大鏡』がこのあたり、良質の資料に恵まれてゐるらしいことをうかがわせている。加えて、Aの少し後に、

B 御位去らせたまひしことも、多くは（延暦寺根本）中堂にのぼらせたまはむとなり。

さりしかど、のぼらせたまひて、⁽³⁾さらにその驗おはしまさざりしこそ、口惜しかりしか。

やがておこたりおはしまさずとも、すこしの驗はあるべかりしことよ。

と、三条の退位が眼病の平癒祈願のために比叡山延暦寺に登ることを望んでのものであつたことを語つており、『大鏡』は三条を「目を病む帝」、ひいては「眼病によつて退位した帝」として描こうとしているものと見てよいであろう。

さて、いささか唐突ながら、本稿では、ここに同じく眼病によつて退位を余儀なくされ

た『源氏物語』の朱雀帝の影を見ておきたい。『源氏物語』は、次のように一度にわたつて朱雀帝の眼病に触れ、それが光源氏の召還、そして東宮（冷泉帝）への譲位の直接の契機となつたことを語つてゐる。朱雀帝はまさしく「目を病む帝」であり、「眼病によつて退位した帝」なのである。

C 三月十三日、雷鳴りひらめき雨風騒がしき夜、帝（＝朱雀帝）の御夢に、院の帝（＝桐壺院）、御前の御階の下に立たせたまひて、御氣色いとあしうて睨み^{にらみ}こえさせたまふを、かしこまりておはします。聞こえさせたまふことども多かり。源氏の御事なりけんかし。いと恐ろしういとほしと思して、后（＝弘徽殿大后。朱雀帝の母）に聞こえさせたまひければ、「雨など降り、空乱れたる夜は、思ひなしなることはさぞはべる。軽々しきやうに、思し嘆くまじき」とと聞こえたまふ。睨みたまひしに見合はせたまふと見しけにや、御目にわづらひたまひてたへがたう悩みたまふ。御つつしみ、内裏にも宮にも限りなくせさせたまふ。

D 去年より、后（＝弘徽殿大后）も御物の怪なやみたまひ、さまざまの物のさとしきり騒がしきを、いみじき御つつしみどもをしたまふしるしにや、よろしうおはしましがれる（朱雀帝の）御目のなやみさへこのうろ重くならせたまひて、もの心細く思されければ、七月二十余日のほどに、また重ねて（光源氏へ）京へ帰りたまふべき宣旨くだる。

春日美穂氏は、「目の呪能」についての林田孝和氏の所説を踏まえて、天皇が世を治めるにあたつての「見る」ことの重要性を、⁽⁴⁾国見を象徴的な例として挙げつつ指摘し、亡父桐壺院の「睨み」によつてもたらされた眼病が、朱雀帝にとつては「世を所有する権利の剥奪」を意味することを説いてゐる。このような古代的な解釈を『大鏡』の三条天皇のケースにもそのまま適用しうるか否かはさておき、三条が眼病のために官奏などの公務の執行に支障をきたしたことは、『小右記』などからも確認される事実であり、その眼病はやはり天皇としての不適格性を意味するものとみなさざるをえないであろう。

もつとも、三条天皇の退位の理由をめぐつては、ほかにもさまざまな語り方がありえたはずである。たとえば『栄花物語』は、「上（＝三条）はともすれば御心あやまりがちに、御物の怪さまざまに起らせたまへば、静心なく思しめされて、内裏を夜昼に急がせたまふは、おりゐさせたまはんの御心にて」と語るのみで、三条の眼病にはいつさい触れていない。『大鏡』が三条をもつぱら「目を病む帝」「眼病によつて退位した帝」として描き、眼病をめぐるエピソードを中心に三条の章段を構成しているのは、単に三条の眼病が『小右記』『御堂閑白記』などの同時代史料からも裏づけられる周知の事実であつたからではなく、歴史上には例を見ない（眼病によつて退位した帝）の唯一の先例として、『源氏物

語』の朱雀帝の存在を念頭に置き、三条と朱雀帝とを重ね合わせて描こうとしたためではなかつたか。

朱雀帝がCのように、桐壺院の靈に睨まれたことを機に目を病んだとされているのに対して、『大鏡』は三条天皇の眼病の原因を、「桓⁽⁵⁾ 算供奉の御物の怪にあらはれて申しけるは、『御首に乗りゐて、左右の羽をうちおほひ申したるに、うちはぶき動かす折に、すこし御覽するなり』とこそひはべりけれ」と語つており、やや趣は異なるが、この世のものならぬ怪異によつて眼病がもたらされている点は共通している。また、Dのように、一進一退を繰り返しながら徐々に悪化してゆく点で、朱雀帝と三条の眼病はその病状までもが似通つてゐる。

『大鏡』は『栄花物語』とは一線を画して、『源氏物語』をはじめとする作り物語の名をけつして挙げず、歴史と虚構とを峻別すること（あるいはそのように装うこと）に強いこだわりを見せてゐるが、そのことは必ずしも『源氏物語』の影響それじたいの排除を意味しない。『大鏡』にやや後れて成立したとみられる『栄花物語』続編には、たとえば、章子内親王（後一条天皇の第一皇女。母は道長四女の中宮威子）による菩提樹院の御堂供養について「かの源氏の耀く日の宮（＝藤壺）の尼になりたまふ願文読み上げけん心地して」と述べるなど、『源氏物語』の歴史化・先例化の例が散見するが、それは『大鏡』の時点ですでに始まつていたと見るべきであろう。

『大鏡』には、眼病に加えていま一つ、三条天皇と『源氏物語』の朱雀帝との繋がりを強くうかがわせるエピソードが見出せる。それは以下に掲げる、当子内親王（三条天皇の第一皇女。母は清時長女の皇后城子）が斎宮として伊勢に下向する際に行われた発遣の儀における、「別れの御櫛」にまつわるものである。

E 「斎宮（＝当子内親王）下らせたまふ別れの御櫛させたまては、かたみに見返らせたまはぬことを、思ひかけぬに、この院はむかせたまへりしに、あやしとは見たてまつりしものを」とこそ、入道殿（＝藤原道長）は仰せらるなれ。

「別れの御櫛」とは、斎宮の伊勢下向に先立つて大極殿で行われる発遣の儀に際して、天皇が斎宮の額髪に手ずから黄楊の櫛を挿す儀式をいう。古代には呪力を持つものと信じられていた櫛を挿すことには、天皇の持つ祭祀権を斎宮に分与する意味合いが込められていたものと推察される。天皇は櫛を挿す際、斎宮に「京の方に赴きたまふな」と告げる。天皇の代替わり^(タブ)とに未婚の皇女一人がト定される斎宮の退下・帰京は、そのまま天皇の退位、場合によつては死さえも意味したからである。そのような神聖にして重大な儀式であるがゆえに禁忌^(タブ)も多く、天皇が櫛を挿した後は互いに振り返つてはならないとされたが、Eによれば、三条天皇は櫛を挿されて退いた当子内親王の方を振り向いてしまい、見ていた道長を不審がらせたといふ。

本橋裕美氏が指摘しているように、このエピソードは「別れ」に耐えきれない三条天皇の弱さを露呈し⁽⁶⁾たものにほかならず、しかもその「弱さ」は、『大鏡』が贊美してやまない道長のまなざしに射抜かれることによつて、動かしがたく印象づけられてもいる。同時に、「別れの御櫛」の際に禁忌を犯したことは、三条朝が「世をたもたせたまふこと五年」という短さで終わつたことの理由づけにもなつていよう。三条の人柄には、「御心ばへいとなつかしう、おいらかにおはしまして、世の人のみじう恋ひ申すめり」と高い評価が与えられているが、その一方で『大鏡』は「勝ち進む者が不可避に伴う残酷さを正視し得る神経を持ち、その陰に必ず存する敗者への同情の涙でその目をくもらせることのな

い」と評される冷徹さを備えており、三条が天皇としての適格性を欠いていることを、ここでも見過ごしてはいないのである。

斎宮当子内親王の伊勢群行は長和三年（一〇一四）九月二十日のことであつたが、『小右記』『御堂関白記』『權記』が揃つてこの日の記事を欠いていることもある。Eが事実であつたか否かは確認できない。しかし、Eは歴史・文学のいずれの分野でも、『大鏡』以外のテクストには見出せない独自の記事であり、『大鏡』の創作による虚構の逸話である可能性が高い。というのも、『大鏡』に先立つて、『源氏物語』に次のようなEに酷似するエピソードが存するからである。

F斎宮は十四にぞなりたまひける。いとうつくしうおはするさまを、うるはしうしたてたてまつりたまへるぞ、いとゆゆしきまで見えたまふを、帝（＝朱雀帝）御心動きて、別れの櫛奉りたまふほど、いとあはれにてしほたれさせたまひぬ。

斎宮にト定された前坊の姫君（のちの秋好中宮）の伊勢下向に先立つ「別れの御櫛」の折、朱雀帝は初対面の姫君の美しさに心を奪われ、自身の譲位までは再会も叶わないことを悲しんで、櫛を挿す際に涙をこぼす。前述の「京の方に赴きたまふな」ということばのような禁忌性の明示こそないものの、伊勢に下る斎宮を送り出す天皇の落涙は、本来あつてはならない不吉なふるまいには違ひなく、ここに「御心なよびたる方に過ぎて、強きところおはしまさぬなるべし」と評される朱雀帝の「弱さ」が露呈していることは否定したい。心優しいが情に脆く、それが災いして天皇として毅然と臨むべき「別れの御櫛」の場で失態を晒してしまう、という点で、Eの三条天皇とFの朱雀帝のありようは符合している。

『大鏡』にしか見られないEのエピソードは、『源氏物語』のFに着想を得て、その変奏として創作されたものと見てよいのではあるまいか。なお言い添えておけば、『源氏物語』は寛弘五年（一〇〇八）の時点では少なくとも「薄雲」巻までは成立していたことが『紫式部日記』から知られており、仮に事実であったとしても、長和三年（一〇一四）の出来事であるEに基づいて「賢木」巻のFが書かれることは、時系列的に入りえない。

『源氏物語』の引用や変奏は、作り物語に限らず、歴史物語の『栄花物語』『今鏡』『増鏡』などにも顕著に見られる現象であるが、FからEへの変奏に見られるように、従来『源氏物語』とは縁遠いと見られてきた『大鏡』も、けつしてその例外ではなかつたのである。本稿で述べてきた『大鏡』の三条天皇と『源氏物語』の朱雀帝との関わり——より具体的にいえば、『大鏡』が三条天皇という人物を描き、その章段を構想するに際して、『源氏物語』の朱雀帝の物語から「目を病む帝」「眼病によつて退位した帝」というモティーフと「別れの御櫛」のエピソードを攝取していること——は、従来の『大鏡』研究史では等閑に付されてきた。

一方、『源氏物語』研究史においては、朱雀帝の眼病をめぐる前掲Cについてのみではあるものの、室町時代の一条兼良による注釈書『花鳥余情』が次のように注記しており、以後、江戸時代に最も広く読まれた北村季吟の『湖月抄』にまで継承されてゆく。

G朱雀院の御目わづらひ給ふ事は、三条天皇即位の後、御耳目あきらかならざることを思よせたり。それは民部卿元方の靈によれり。又、寛算供奉が靈ともいへり。

ここには、「御耳目」「民部卿元方の靈」などの『大鏡』にはない情報も含まれており、この注記は『大鏡』ではなく、主に『花鳥余情』もたびたび引用している『小右記』に依拠して書かれたのではないかと思われるが、『寛（桓）算』の名も見えており、『花鳥余情』

の三条天皇の眼病についての理解は、『大鏡』とそれほど変わらない。

ここで問題にしたいのは、「思よせたり」とあるように、『花鳥余情』が朱雀帝の眼病は三条天皇のそれになぞらえて書かれているのだ、述べていることである。先ほどの「別れの御櫛」の場合と同様に、三条が眼病を発症した長和三年（一〇一四）には、Cを含む「賢木」巻はすでに成立していたとみられるから、『花鳥余情』の所説は当然成り立たない。冒頭の「作意」に『紫式部日記』の『源氏物語』についての記事を引用するなど、『源氏物語』の成立についても一定の見識を有していたはずの『花鳥余情』がそのことに気づかなかつたことは不思議に思われるが、それはなぜなのであろうか。

ここには、物語と歴史との関わりを考える上で、一つの落とし穴があるようと思われる。たとえば、朱雀帝の眼病に関する『源氏物語』のCの記述を読み、同様の例として『大鏡』のAに記されたような三条天皇の眼病を思い浮かべたとき、私たちは『花鳥余情』と同じように、三条の眼病という歴史的事実がまず先にあって、それにヒントを得て『源氏物語』のCが書かれたのだ、と考えてしまいがちなのではないだろうか。そこには、虚構よりも事実に、物語よりも歴史に優位性を認め、物語が歴史を踏まえて書かれることはあっても、⁽⁸⁾歴史叙述が物語に左右されることなどありえない、という無意識の先入観ないし固定観念があろう。

（桜井宏徳『源氏物語』と『大鏡』——三条天皇と朱雀帝を例として——による）

問一 傍線（1）『大鏡』の対話様式」とはどういうものか。具体的に説明せよ。

問二 傍線（2）を現代語訳せよ。

問三 傍線（3）を現代語訳せよ。

問四 傍線（4）「国見」とは何のために何をする行為か、説明せよ。

問五 傍線（5）「御物の怪にあらはれて申しけるは」とは、どのような形でメッセージを伝えることを言うか、説明せよ。

問六 傍線（6）『源氏物語』の歴史化・先例化」とはどういうことか、わかりやすく説明せよ。

問七 傍線（7）「北村季吟」について、『湖月抄』著述以外の業績を述べよ。

問八 傍線（8）「歴史叙述が物語に左右される」とはどういうことか、物語が歴史叙述に関与する場合としない場合とを比較しつつ説明せよ。

（問題以上。解答はすべて答案用紙に記入のこと。）

令和4年度 お茶の水女子大学 文教育学部 第3年次編入学試験問題
言語文化学科(中国語圏言語文化プログラム)

I 次の設間に答えよ。

(1) 以下の文を日本語に訳せ。

王戎七歳、嘗与諸小兒遊、看道邊李樹多子折枝。諸兒競走取之、唯戎不動。人問之。答曰、「樹在道邊而多子。此必苦李。」取之信然。

(『世說新語』による)

注 王戎 一人名。 李 一 すもも。 子 一 実。

(2) 以下の各項目について簡単に説明せよ。

- ① 韻書
- ② 類書
- ③ 經書
- ④ 隋書經籍志
- ⑤ 史記

II 次の文章を読み、以下の設間に答えよ。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(《读书 369》中国寓言故事 智愚篇三より)

問1 下線部(ア)～(オ)のピンインを簡体字に、簡体字をピンインに直しなさい。

問2 下線部(1)と(2)を日本語に訳しなさい。

問3 轮扁が下線部(A)のように言ったのはなぜか、本文中の轮扁の答えに即して150字以内で述べなさい。

問4 (3)に入る副詞として最もふさわしいものを選びなさい。

- A. 就 B. 才 C. 都 D. 却

令和4年度 お茶の水女子大学 文教育学部 第3年次編入学試験問題
言語文化学科(英語圏言語文化プログラム)

- 1 次の英文を読み、設間に答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(Adapted from Eliot Larson, *The Myth of Artificial Intelligence: Why Computers Can't Think the Way We Do*, 2021)

設問1 下線部(1)を和訳しなさい。

設問2 下線部(2)を和訳しなさい。

- ② 次の英文を読み、設間に答えなさい。(* を付した語には、注があります。)

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(Adapted from Else Rosendahl, *The Vikings*, 1987)

設問1 (a)~(e)に入る最も適切な前置詞を以下から選び、解答欄に書き入れなさい。

for, from, into, of, on, with

設問2 ④[]の中の語を最も適切な順序に並べ替えて解答欄に書きなさい。

設問3 筆者は Viking Age の始まりと終わりをいつ頃と推測しているか、それをその理由とともに日本語で述べなさい。

設問4 下線部(1)を和訳しなさい。

設問5 下線部(2)を和訳しなさい。

3 次の設間に英語で答えなさい。

Discuss the following statement in an essay: A person should never make an important decision alone.

令和4年度 お茶の水女子大学 文教育学部 第3年次編入学試験問題
言語文化学科(仏語圏言語文化プログラム)

次のI (A)、I (B)、II、各問につき一枚の答案用紙を用いて答えなさい。
(答案用紙の最初に I (A) というように記すこと。)

I. 次の各文を日本語に訳しなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(D'après Nicolas Ancion, *La cravate de Simenon*)

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(D'après « Des grands singes vaccinés contre le Covid-19 », *ljourlactu*, le 11 mars 2021)

II. 次の文章をフランス語に訳しなさい。

フランス語の発音は難しいと言う人がいますが、本当にそうでしょうか。たしかにイタリア語やスペイン語に比べると、少し複雑かもしれません。フランス語のつづりをそのまま読んでも、通じないことがしばしばあります。フランス語には日本語にはない母音や子音がありますので、発音の仕方を学ばなくてはなりません。でもきちんと訓練すれば、日本人でも美しいフランス語を話せるようになります。

令和4年度 お茶の水女子大学 文教育学部 第3年次編入学試験問題

人間社会科学科(教育科学プログラム)

問 1.次の文章を読んで、下記の設問に日本語で答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(出典) Hochschild, A. R.(1983) *The Managed Heart: Commercialization of Human Feeling*, University of California Press. (一部改変)

注: the Lucas Guide: 雑誌名, outward countenance: 外見, elation: 高ぶり、意気揚々, disguise: 偽装する

設問 1.下線部①②を日本語に訳しなさい。

設問 2.下線部③に関して、現代の学校教育においてどのようなことが起きているのか、あなたの考えを論じなさい。

問2. 次の文章を読み、間に答えなさい。

いわゆる「教員の多忙化」(以下、「多忙化」)が問題として社会的に注目され、論議されるようになってから長い年月が経過しているが、いっこうに解決のめどがたたない。多忙化はしばしば部活動の指導にからめて論じられる。しかし部活動の指導や引率が多忙化問題のすべてではない。

民間企業であれば、従業員の人事費を常に最適値にすることを考える。従業員が少な過ぎて、各従業員の時間外勤務手当や休日勤務手当(以下、「時間外手当等」)の支出が増えすぎると、経営にとってマイナスであるが、それ以上に、従業員の身体的精神的な健康維持にもマイナスであるから、必要な人数の社員を確保しようとする。逆に、収益とのバランスを崩すほどに従業員が多いと、人事費が経営を圧迫する。人事費と社員の人数の最適値を維持することが企業経営の一つのポイントである。

ところが、公立学校教員の世界では、上記のような最適値を把握して教員の人数を常に適正なものにしようとする努力がなされていない。そのような努力の必要がないのである。それはなぜか。

1971年に制定(翌年から施行)された「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」という法律がある(以下、「給特法」)。教員に対して4%の「教職調整額」を上乗せして支給する代わりに、時間外手当等を支給しないことを定めている(ただし、実習に関する業務、修学旅行等の学校行事、職員会議、非常災害の対応の4つの業務については時間外や休日の勤務を命じて手当を支給することが可能)。4%の加算がある代わりに時間外や休日の業務に対する手当は支払われることになっているのである。だから、公立学校の教員に関しては、時間外手当等の支出は基本的に存在せず、毎月一定の人事費を支出すればよい。しかも、教員定数も法律(「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」、以下、「義務標準法」)で基本的に決まっている。したがって、各学校の仕事量に対して、多過ぎず、少な過ぎない人数の(つまり最適な人数の)教員を確保するという努力は不要である。

実際には、部活動に限らず教員は夜、あるいは土日に学校で仕事をしている。授業の準備やテストの採点を自宅で行うことも珍しくない。こういうことが頻繁に発生しているから「多忙化」と言われる。民間企業ならば、「自発的な」時間外の勤務は「サービス残業」と言われる。正規の残業なら手当が出るから「自発的に」やっていると「サービス」と言われ、それが頻繁にあると社会的には「ブラック企業」と言われるが、教員の場合、時間外の仕事は「サービス」でできない。では教員の勤務時間外の仕事がどうなっているかというと、自発的行為とみなされている。しかし実質的に仕事をしているうえに、その時間が多いので、この自発的行為の時間をカウントした「多忙化」なのである。

給特法は、教員の時間外手当等の代わりに一律4%の教職調整額を支給することにしてしまっているのだが、この規定はどのようにして成立したのか。当時毎日新聞記者であった山崎政人『自民党と教育政策』(岩波書店、1986年)によれば次のとおりである。時間外手当等の支払いを求めた訴訟が各地で起こされ、支払いを求めた教員の勝訴が続いていた。そこで、与党自民党の中で対応をめぐる議論が始まった。文教族(教育に関心をもつ議員集団)のベテランたちは、教師は聖職者であってその業務は時間で区切られるものではないと主張して、いかなる手当の支給にも反対したが、若手の西岡武夫や河野洋平がベテランを説得して法案への理解をとりつけた。一方、日本教職員組合の内部でも激しい論争が起こった。教員は労働者であると考えるグループは、教職調整額の支給で無定量の業務に従事させられてしまうことを懸念して反対したが、稳健派グループは、教職の特殊性も考慮する必要も認めており、教職調整額でもやむを得ないと考えて、教員が労働者であることを強調する主張を抑えようとした。このように極端に相対立する議論があるなかで、妥協の産物として教職調整額の方式が制度化されたのである。

なお、給特法制定の5年前の1966年の国連教育科学文化機関(ユネスコ)の特別政府間会議で、「教員の地位に関する勧告」が採択された。ここでは、教職は専門職とされて、その前提に立ってさまざまな勧告が行われた。

給特法が制定されてから半世紀が経過した。義務標準法の改正で1980年に小・中学校の1学級の児童・生徒数が45人以下から40人以下に引き下げられ、その分、教員数が増やされた。しかし、不登校の児童・生徒やいじめ問題などへの対応、クレーマーのような保護者への応対、総合的な学習の時間の導入や学校運営協議会の設置などその時々の教育改革への対応など、この半世紀の間に教員の仕事量は相当に増えている。それゆえに「教員の多忙化」という言葉で給特法の限界が大きく浮上してきたのである。

設問1. 教員の勤務が時間で区切れないのは、それが特殊な性格をもっているためとされている。教員の勤務の特殊性はどのようなものか、3行以上6行以内で説明しなさい。

設問2. 教職が専門職であるとした場合、「多忙化」問題解決の道筋はどのように考えられるか、自分の考えを述べ、かつ、その根拠などを、3行以上6行以内で説明しなさい。

令和4年度 お茶の水女子大学 文教育学部 第3年次編入学試験問題
人間社会科学科(社会学プログラム)

1. 2. 3. の解答は、それぞれ別の答案用紙に、問題番号を明記して記入すること。

1. 能力主義についてその問題と可能性を社会学的な観点から論じなさい。

2. 次の英文の全文を日本語に訳しなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

※ ethnography:民族誌、エスノグラフィー

出典: American Sociological Association, 2009, *21st Century Careers with an Undergraduate Degree in Sociology*,
Washington DC: American Sociological Association, p.5.

3. 次の英文を読んで、(1), (2), (3)の問い合わせに日本語で答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

※ apparatus : 装置、器官 instantaneous: 即時の、即座の

出典 : Edles, Laura Desfor, 2002, *Cultural Sociology in Practice*, Malden, Massachusetts: Blackwell Publishers, p.56.

- (1) 筆者は、現代社会の特徴をどのようにとらえていますか。
- (2) 筆者はメディアという用語で何を意味していますか。
- (3) Before that が指す内容を具体的に明らかにして、下線部を日本語に訳しなさい。

令和4年度 お茶の水女子大学 文教育学部 第3年次編入学試験問題

人間社会科学科(子ども学プログラム)

問題1、問題2の解答は、それぞれ別の答案用紙を使用し、解答欄に収まるように記入すること。

問題1 次の英文資料を読み、各問に日本語で答えなさい。

- (1) 下線部①を訳しなさい。
- (2) 下線部②について、その理由を考え200字程度で論じなさい。その際「子どもの批判的思考」および「生涯教育」という言葉を入れ、その言葉に下線をすること。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

出典：Brookfield, S. D. (1987) *Developing Critical Thinkers -Challenging Adults to Explore Alternative Ways of Thinking and Acting-*, San Francisco: Jossey-Bass Publishers.

問題2 次の文章を読み、各間に答えなさい。

- (1) 下線部について、「歴史性や状況性を踏まえた幼児理解」を「持続的に」書き残す、とはどういうことか、本文の内容に即して説明しなさい。(300字程度)
- (2) 「記録する」という観点から、保育施設における保育と家庭における子育ての違いを論じなさい。(400字程度)

幼児の遊びの充実を考えた時、保育者はまず第一に、幼児が何に興味関心を示し、どのようにモノや人と関わって遊びを展開しようとしているかを読みとる。なぜならば、遊びは幼児が環境に主体的に関わって生み出すものだからである。目の前の幼児が遊びの中で何に興味を示して環境と関わり、どのように他人と関わっているかを把握しなければ、次に必要な経験を導き出して保育を構想することはできない。

小川博久はこのことについて、「指導計画を立てるという仕事は保育者が一人ひとりの幼児の明日の活動をどう予測し、それにどう備えていくかを過去の幼児の行動を振り返ることで構想することである」と述べる(小川, 2000, p. 77)。保育は再現不可能な一過性の営みである。この営みにおいて「過去の幼児の行動を振り返る」ためには、「過去の幼児の行動」が何らかのデータとして残されている必要がある。保育者にとって最も重要なデータとなるのが保育記録である。保育記録は保育を構想するために重要な役割を担っているといえる。

しかもそのデータは持続的に積み重ねなければ「明日の予測」につながらない。津守真は幼児の行為を、その幼児ののっぴきならない自己表現と捉えることから幼児理解は始まると言う(津守, 1979)。その行為が「のっぴきならないことかどうか」を判断するには、その幼児の生活の「履歴」を知らなければならないが、幼児と生活を共にする保育者が持続的に幼児と「共に在る」ことによってそれを知ることができるのである。

例えば、クラスのほとんどの幼児がリレーをして遊んでいる時にブランコに乗っている5歳児がいるとしよう。どうしてその子はブランコに乗っているのだろうか。もしかしたら、リレーをしたかったのに仲間と直前に喧嘩をし、ブランコに乗って気持ちを落ち着かせているのかもしれない。あるいはリレーが苦手なのかもしれない。あるいは負けることを避けたいのかもしれない。あるいはまた、純粹にブランコに乗りたかったのかもしれない。この行動をその場面だけで解釈しようとすれば、

このようにいろいろに解釈できてしまう。その幼児の「履歴」を知らない限りだけから「ブランコに乗る」ことのその子どもにとっての意味を適切に解釈することは難しい。その幼児がブランコという遊具にどのように関わってきたか。あるいは、友達関係はどうか、など、これまでのその子どもの生活の履歴から行動の傾向を知り、その延長上においてしかその場面の意味を解釈することはできない。

もちろん、解釈は固定的であってはならず、常に解釈は修正あるいは更新されるものであるが、とりあえずその場の意味を解釈しなければ、保育者としてどう振る舞うかを決定することができない。保育者の幼児理解はそこに保育者自身の関わりも包摂されているのである。保育者は幼児と生活を共にする当事者として、幼児に対してその時期に期待する育ちの姿をイメージしている。そのイメージと、その幼児の個別の事情や行動傾向とを交差させて、その幼児にとってのその行為の意味を把握しようとする。おそらくこの場面が4月の初めにブランコに乗っている3歳児の姿であれば、そこに「のっぴきならない事情」があるとは思わず、園の中で自分の好きな遊びをみつけた姿と意味付けるだろう。しかし、この幼児が5歳児であり、クラスのほとんどの幼児が一つの方向に向かうこと喜びを見出し始める時期だとしたら、その幼児の「のっぴきならない」事情を推測するかもしれない。その幼児との生活史の中で理解している「行動傾向や志向性」と、その幼児への「期待」の両方の眼差しによって、「ブランコに乗る」という行動は意味付けられる。保育者は幼児と時間と空間を共にしているからこそ、持続的に幼児を見ることができ、歴史性や状況性の中でその幼児の行為の意味を受け止めることができるるのである。

このことを保育記録の観点から言い換えれば、歴史性や状況性を踏まえた幼児理解が持続的に書き残されることが重要である。

出典：河邊貴子（2013）『保育記録の機能と役割—保育構想につながる「保育マップ型記録」の提言』聖公会出版より一部改変。